

経済社会学会年報XXIII

■大会実行委員長挨拶

■第36回全国大会共通論題「21世紀の方位—公正と参画の社会をめざして—」

グローバルデザイン—地球社会システムへの精神的参画を—

21世紀のグローバルデザインをめぐる—永安報告へのコメント—

社会システムとしてのユニバーサルデザイン

社会システムとしてのユニバーサルデザイン—佐々木報告へのコメント—

新しい社会経済システムの方位—20世紀の経験と21世紀への展望—

新しい社会経済システムへの展望—福田報告へのコメント—

■準共通論題論文

“真の”共同参画社会は実現可能か—法と教育からの観点を中心として—

インターネット時代のコミュニケーション的連携

—錯綜する差異化・断片化と連帯・連携の構図—

社会価値と合理性—合理性の別の意味を求めて—

■準共通論題要旨

参加のまちづくりと価値形成—現実化することの内的根拠—

米国におけるデジタル・デバイド問題

人間性価値と効率—価値と参加の経済学の方法—

コミュニティ・ケアにおける社会参加の支援

—「自立」と「選択」の社会基盤形成に向けて—

共生システムと「生活の質」

■自由論題論文

共生システムへの身体論的考察—消費社会とユニバーサルデザインを軸に—

テクノストラクチャ論再考

消費対象としての身体—健康ブームをめぐる—

記号論的消費社会論再考

民間非営利組織（NPO）における情報共有構造の実態

—在宅介護サービスNPOの信頼メカニズムに関する事例研究—

■自由論題要旨

「グローバリゼーション」と日本農業

ミュルダールの「新古典派価値論批判」

ハンナ・アーレントの共和主義論

ビジネス・エシックスにおける徳の議論

経済・政治・倫理・宗教の連鎖についての—考察

スベンサーとヴェブレン

—進化論を基礎とする両者の理論的共通性について—

国際通信の市場占有過程と優位性について

コミュニティビジネスへの公的支援について

東條 隆達…… 3

永安 幸正…… 4

角村 正博…… 10

佐々木實雄…… 13

織田 輝哉…… 19

福田 亘…… 22

鉢野 正樹…… 28

小田桐 忍…… 32

田中 人…… 41

角田 史幸…… 51

有泉はるひ…… 60

谷口 洋志…… 62

津田 直則…… 63

中島 裕明…… 65

三重野 卓…… 68

斎藤理恵子…… 71

中川 淳平…… 82

藤岡 真之…… 91

水原 俊博…… 98

宮垣 元……111

宇野 正昭……121

菊地 均……124

杉浦 敏子……126

土屋 武夫……129

戸田 信正……131

挾本 佳代……134

福永 吉徳……136

藤本 芳徳……138

経済社会学会年報XXIII

共通論題「21世紀の方位—公正と参画の社会をめざして—」

2001

経済社会学会編
現代書館発売

編集後記

新しいスタイルの学会年報もすっかりおなじみになり、ますます論文数も増えてきて結構なことだと思いますが、今後どんどん論文数が増えていったらどうなることか、という心配が出てきました。現在の年報は、学会のサイズに比べると相対的に立派だと思うので、予算面、およびレフリーのマンパワーの面で限界を突破してしまうかもしれません。その時が次の年報改革の機会になるでしょう。(M)

学会も若手の方の大会発表が多くなり、年々活発になってきました。しかし、年報の掲載者が毎回同じような人が多いという意見も少なくありません。これは、年報には大会報告の内容を論文または要旨にして掲載するため、大会報告者が同じような人が多いことにも一因があると言えます。できるだけ多くの会員の方に掲載の機会を与え、開かれた年報にするためには、まず多くの会員の方に大会報告者になってもらうか、自由投稿論文への執筆を促すことが考えられます。多くの方に読まれる質の高い年報にするためにも、会員皆さんのご意見を幅広く伺いたいと思います。(O)

早いもので、1999年より年報の編集を一部担当して、本年が3年目となります。年報の中でも書評関係の依頼を担っているだけで、編集後記を書く段になって気恥ずかしいところです。最近、電子メールで作業のほとんどを終えてしまう状況になっていますので、文明の利器に大いに感謝しています。また、本年は、書評をお願いした会員の先生方が、快く引き受けてくださったことが、なんと言っても最大のお礼を申し上げたいところです。来年以降も、そうあることを願って、本年の感謝と致します。(K)

経済社会学会 年報編集委員会
 恩田守雄(委員長)/間々田孝夫/長尾周也/鉢野正樹/菊島啓/安田雪

経済社会学会年報 XXIII 「21世紀の方位—公正と参画の社会をめざして—」

2001年9月23日 初版第1刷発行

編 者 経済社会学会
 〒657-0013 神戸市灘区六甲台町2-1 神戸大学経済学部気付
 電話(078)881-1212
 編集者代表 恩 田 守 雄
 発 行 者 田 村 正 勝

発売所 株式会社 現代書館
 〒102-0072 東京都千代田区船田橋3-2-5
 電話(03)3221-1321 FAX(03)3252-5906
 振替 00120-3-63725

写 真 一 ツ 橋 電 植
 印刷・製本 平 河 工 業 社

ISBN4-7684-7080-7 ISSN 918-3116

| | |
|---------------------------|------------|
| アリストテレス経済社会学の一論考 | 村越 好男……140 |
| —公正と社会秩序形成原理としての友爱(フィリア)— | |
| 文化芸術と貨幣交換 | 山田 真一……142 |

■自由投稿論文

| | |
|-----------------------------------|------------------|
| 企業合併における人事調整—新日本製鉄の事例— | 阿部 健……144 |
| ドイツ都市ごみ管理における「民営化」とごみ処理手数料の政策的可能性 | 小野 隆弘……154 |
| 定年退職者の就業・不就業の規定因 | 元治恵子・長谷川万希子……162 |
| ミューラー＝アルマックの社会的市場経済構想 | 村上 寿来……169 |
| —その背後におかれた問題意識について— | |

■書評

| | |
|--|------------|
| 戸田信正著『経済学と人間像』 | 大野 正英……178 |
| 保坂俊司著『イスラームとの対話』 | 高柳 正巳……180 |
| 永合位行著『ヘルダー・ドルナイヒの経済システム理論』 | 武井 昭……182 |
| 森嶋通夫著『なぜ日本は没落するか』 | 東條 隆進……184 |
| Timothy P. Roth. 著 <i>Ethics Economics and Freedom —The failure of consequentialist social welfare theory—</i> | 戸田 信正……186 |
| 間々田孝夫著『消費社会論』 | 前田 稔……188 |

| | |
|----------------------------|-----|
| ■全国大会プログラム | 190 |
| ■学会会則/役員選出規定/年報編集規程/年報執筆要項 | 193 |
| ■年報掲載確認書 | 196 |
| ■編集後記 | 197 |